

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上13-6
評価実施期間：平成27年11月1日から平成28年2月4日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060972 060892 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成27年10月現在）

事業所名：相澤訪問看護ステーションひまわり塩尻事業所	種別：訪問看護	
代表者氏名：理事長 相澤 孝夫 (管理者氏名) 山崎 優子	定員(利用人数)：122名	
設置主体：社会医療法人財団慈泉会 経営主体：地域在宅医療支援センター	開設(指定)年月日： 平成18年4月1日	
所在地：〒399-0744 長野県塩尻市大門桔梗ヶ原79-2		
電話番号：0263-53-8611	FAX番号：0263-53-8621	
ホームページアドレス： http://www.ai-hosp.or.jp		
職員数	常勤職員：8名 非常勤職員 6名	
専門職員	(専門職の名称) 看護師 2名 看護師 6名	
	理学療法士 5名	
	作業療法士 2名	
	言語聴覚士 1名	
施設・設備の概要	(居室数) 事務室 相談室 (設備等) 緊急訪問用車両	

3 理念・基本方針

私たちは、住み慣れた場所で安心して暮らせる地域を創るために、継続的にサービスの質改善を図り、安全で信頼される医療・介護・福祉サービスの充実と強化を目指します。

1. 地域講習会、出前講座、ひまわり塩尻祭りの開催、広報誌の発行などにより、地域住民や医療福祉関係機関から困った時、必要な時の相談窓口となるよう推進していきます。
2. 地域の皆さまが24時間毎日安心して生活できるために、医療面だけでなく生活全般を総合的にコーディネートし、専門スタッフによる迅速かつ的確なサービスが提供できる支援センター塩尻の体制を強化していきます。
 - * 塩尻市の医療介護連携を強化する体制作り積極的に参加し、地域包括ケアシステムの基盤を作っていきます。
 - * 専門スタッフが医療面・生活面全般を総合的にアセスメントし、利用者の視点に立った柔軟な発想を持ってサービス提供でき、また多職種間の連携を強化し、目標を共有し問題解決できるシステムを作っていきます。
 - * 多職種連携をキーワードとした地域に向けた症例検討会開催により、困難事例や医療依存度の高い事例に対しての連携・協働の情報を発信していきます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

居宅介護支援事業所、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションを併せ持つ複合事業所としての総合力を活かし、事業所祭りや地域に出向いた講習会、事業所内外での研修会などを行い、地域の医療・介護ニーズに応えるよう積極的に活動しています。

- ・母体である相澤病院はもちろんのこと、地域の医療機関や介護サービス事業所と、顔の見える丁寧な連携に心がけ、信頼して任せただけのサービス提供に努めています。
- ・小児から高齢者まで、また介護予防から在宅での看取りまで、多様な疾患を持つ方や医療器機管理・医療処置が必要な方に経験豊富な専門スタッフが対応します。
- ・ご本人・ご家族の思いを尊重し、安心してご自宅で生活できるよう、24時間体制でサポートさせていただきます。
- ・サービスの質向上のために、外部研修にも積極的に参加し、今年度は緩和ケア認定看護師取得や在宅介護支援リーダー育成の研修にも参加しています。
- ・塩尻市の医療介護連携手帳作成委員会や地域連携会議等に積極的に参加し、地域包括ケアシステム構築のための体制作りにも協力しています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数	今回初受審
------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

<組織運営 >

法人は時代や地域の要請に耳を傾け、安心して暮らせる地域を創るとしたミッションを新たにし、そのミッションの実現を目指したビジョンを策定し、地域在宅医療支援センターを在宅療養の情報と連携の中心とする拠点整備を推進して来られた。毎朝、朝礼でミッション・ビジョンを読み合わせ、その使命に向き合い、地域在宅医療支援センター塩尻の職員としての一体感を組織の基盤に置いている。訪問看護ステーションひまわり塩尻のビジョンの実践においては全職員が担当・参加するプロフィール（事業所ごとの方針や計画）の目標達成にむけて、所属意識を持って主体的に行動する職員を管理者のリーダーシップによりサポートしている。さらに、様々な症例に応えて行くことが出来る訪問看護師を育成すると共に、在宅療養者を支援する地域在宅医療支援センター塩尻の機能の充実を図る運営に取り組んでいる。

<地域包括ケアシステムを見据えた地域連携>

事業所は地域在宅医療支援センター塩尻のミッション、ビジョンとして、「地域の役割や事業所の持てる知識経験を地域住民に提供する」と示され、顔が見える関係を大切に、地域連携に取り組んでいる。医療面、生活面全体を総合的にコーディネートし、専門職員による迅速、かつ適切なサービス提供できる地域在宅医療支援センター塩尻の強化に努めている。自治体で医療介護連携を強化する体制作りにも、積極的に職員が参画している。昨年度、自治体での医療介護の連携ノート「いきいき手帳」の作成に委員として選出され、今年度より手帳が運用開始している。また、講習会・多職種合同検討会を地域在宅医療支援センター塩尻を活用し開催し、地域ニーズの把握や住民への情報提供に努めている。地域の医療福祉関係者を対象として地域講習会を昨年は2回、症例検討会を2回開催している。多職種連携の合同の症例検討会では、困難事例や医療依存度の高い事例に対して、活発な討議がされ、地域の事業所間での多職種参加、医師を交えた症例検討会が実施されている。

このように、多職種連携に取り組み、地域ケア会議、医療介護連携協議会等にも積極的に参画し、地域包括ケアシステム作りの推進に関わっている。

< 専門職としての質の向上 >

地域で活動する訪問看護が必要とされる専門職の立場を十分理解され、日々の看護師全体の質の向上を常に意識しながら取り組まれている姿勢がうかがえた。介護サービスの充実に向けた専門職としてインターネット配信、eラーニング（訪問看護入門編）を職員が受講し、学習がいつでも職員都合に合わせて、受けられる体制づくりが法人としてされている。

日々の支援場所が在宅という環境の中で看護師としての役割をいかに果たし、医療・介護・福祉連携の充実に積極的に関与し、地域包括ケアシステムの中で支援できる質の強化に取り組んでいる。また、専門性の向上を目指して認定看護師などの取得も積極的に取り組まれている。

特に改善する必要があると思う点

< 利用者満足度の実施 >

訪問看護として、毎月訪問時に利用者・家族から意見を聞き利用者満足について確認をされている。利用者満足に関する調査・アンケート等を定期的に行うことが、改善課題の発見や改善課題への対応策の評価・見直しの検討材料ともなり、職員間での検討・分析する担当者や検討会開催の仕組み等より、組織的なサービス改善の取り組みとなり、さらなる質の向上に結びつくことを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 1 福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象 組織の運営管理(別添 1)
評価対象 適切な福祉サービスの実施(別添 2)

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添 3 - 1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）

（平成 28 年 2 月 12 日記載）

相澤訪問看護ステーションひまわり塩尻事業所は、平成 28 年 4 月で開設して 10 年となります。

私たちはこれまで、慈泉会相澤病院の理念を基に、かかりつけ医や関連機関と密接な連携を図り、専門職として質向上に努め、職員一丸となって在宅医療支援の強化に取り組んできました。この節目の年に第三者評価を受け、専門的かつ客観的に評価していただき、今回の結果をこれまで積み重ねてきたことの成果として、ありがたく受け止めております。利用者調査では、利用者様から大変ありがたいお言葉を頂き、看護の原点に戻って喜びとやりがいを改めて感じ、大変励みになりました。また、受審過程において改善すべき課題や、サービス事業者としての自覚を再認識することが出来ました。今後、定期的にご利用者のニーズや満足度の把握に努めるとともに、組織的にサービス改善をおこない、更に良質なサービス提供に繋がるよう体制を整えていきます。

また、「地域包括ケアシステム」を見据えた地域連携活動に積極的に携わり、24 時間 365 日、質の高いケアを提供でき、これまで以上に地域の方々から信頼される事業所づくりに努めて参ります。